

松波病院 エクセレント賞

臨床研修体制充実、教育環境を整備



松波総合病院に贈られたエクセレント賞を手にする松波和寿院長(右)と村山正憲センター長＝笠松町田代、同病院

研修の質向上を目的に、同機構は研修体制や教育環境の整備など一定の評価基準をクリアした病院を認定病院に指定(4年間)。昨年度から、より厳しい基準を達成した病院に同賞を贈っている。全国242の認定病院のうちこれまで六つの病院が受賞した。同病院は2004年に厚生労働省から新医

松波総合病院(笠松町田代)は、研修医の臨床研修体制などが優れているとして、NPO法人卒後臨床研修評価機構から、県内で初めてエクセレント賞を受賞した。

(亀山大樹)

師臨床研修病院に、08年には同機構から認定病院に指定。毎年8人ほどの受け入れに対し、指導医は46人と多く、指導医の下で各科のさまざまな症例を経験させている。また、院内に臨床研修センターを設置し、実習や勉学の環境整備や、指導医や研修医からのフィードバックを研修の改善に生かす仕組みを整えている。村山正憲センター長は「地域の医師確保や、医師全体のレベルアップにつながる」と受け入れの意義を語る。

受賞を受け、松波和寿院長は「研修医の2

年間は医師としての一生を左右する期間。充実させたい」と語った。受け入れは重い使命で